

さわやかだより

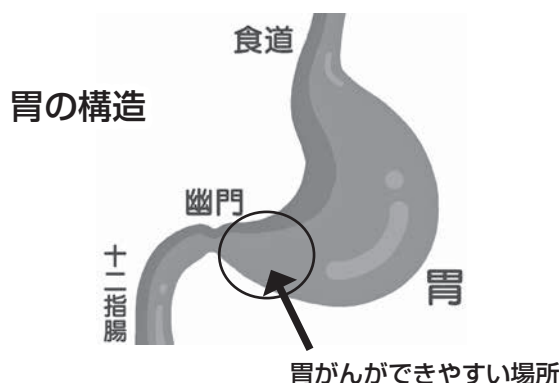
胃がん検診を 受けましょう！

胃がんは特に日本人に多いがんで、1998年に肺がんに追い抜かれるまでがん部位別死因のトップでした。現在は部位別死因の3位で、罹患数は大腸がんに次いで2番目に多いがんです。

「胃の構造」と「胃がん」

もっとも胃がんができやすいのは幽門部(幽門前庭部)で、胃の出口、十二指腸へとつながります。胃がんは食生活と密接な関係があり、食塩の過剰摂取とも関係するといわれています。

ヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)も深く関わっているとされます。食事や生活習慣の変化から、若年層には少なくなっていますが、人口の高齢化を反映し、死亡数や罹患数は決して少なくありません。



「胃がん」の症状

胃がんは、早期の段階では自覚症状がほとんどなく、かなり進行しても症状がない場合もあります。

代表的な症状は、胃の痛み・不快感・違和感、胸やけ、吐き気、食欲不振などです。また、がんから出血

することによって、貧血が起こることや、黒い便(血便)が出ることもあります。しかし、これらは胃がんだけではなく、胃炎や胃潰瘍でも起こる症状であり、検査をしないと区別が難しいのが実情です。

早く見つければ治療効果も高い！！

最近では、健康診断やがん検診が普及したことから、自覚症状の乏しい胃がんでも早期に発見できるケースが多くなりました。一部の早期の胃がんの治療は内視鏡治療など、以前に比べて体に優しい療法で治せる時代になっています。

内視鏡検査(胃カメラ検査)、胃レントゲン検査(バリ

ウム検査)、ピロリ菌検査、ペプシノーゲン検査などで約6割が早期に発見されるようになり、胃がんによる死亡率は年々低下しています。

町では胃レントゲン検査(バリウム検査)とピロリ菌検査(血液検査)を実施しています。定期的に検診を受けて、胃がんの早期発見に努めましょう。

～各種健(検)診のお知らせ～

★特定健診・介護予防健診、胃・大腸・肺がん・前立腺がん検診
肝炎ウイルス検診・エキノкокクス症検診・ピロリ菌検査・風疹抗体検査

会場：健康福祉センターさわやか 6月7日(水)・8日(木)

洞爺ふれ愛センター 6月9日(金)

※事前予約制です。詳細は、4月の回覧でお知らせします。

※新型コロナウイルス感染症対策のため、定員を減らして受付をしています(先着順)



問合せ 健康福祉センター (☎ 76-4006)